

ルカ 10 : 1-12

キリスト教は、派遣する宗教、ミッションの宗教とされています。キリスト教の知識を蓄えること、自分の救いを得ることも大事ですが、今読まれた福音にあるように、主は弟子たちを、そして私たちをご自分の代わりとして世に派遣しています。けれども、イエスから直接派遣されたと実感できることはまれかと思えます。そこで、「派遣」にまつわる私の体験をまずお話しします。

「派遣」という言葉は、辞書によると「ある使命をもって赴かせること」とあります。この意味をもう少し幅を広げると「送り出されること」意味合いも含まれるでしょう。そう理解すれば、私たちはいろんなところで「送り出されて」います。朝、学校に、子どもたちは送り出されるし、学校を卒業すると子どもは家族から社会人として送り出されます。会社で研修を終わるとお客様のところに送り出されます。

大学を卒業した私は、会社に入って3ヶ月間研修を受け、正社員の辞令と名刺をもらいました。営業マンとしてのデビューです。私の就いた仕事は、住宅会社の営業でしたが、名刺があれば売れるというものではまったくありません。「一体自分に家など売れるのだろうか？」と半信半疑のまま3年近くが過ぎました。3度目を迎えたお正月に、展示場で議員バッチを光らせた方と出会い、2ヶ月間ほぼ毎日通って、奇跡的に契約をいただきました。高額物件だったので、気をよくした私は自信をつけ、急に業績が上がりトップセールスマンの仲間入りをした気分でした。会社からもご褒美で、オーストラリア旅行に連れて行っていただきました。けれども、人生そう甘くはありません。そのお客様のお宅の工事は、残念ながら色々な不具合があってクレームになってしまいました。「あれだけ頑張っただけ契約してもらったのに」という残念な気持ちと、お客様への申し訳なさがこみあげました。お詫びの気持ちをこめて、お客様の自宅と店舗の引っ越しの手伝いを、ワールドカップサッカーではありませんが、夜10時ごろから夜中2時、3時まで、1週間続けました。そして、結局、「柴田、お前は悪くない。お前の会社を選んだ俺が悪い。」となんともやるせない言葉を最後にいただき辛い1週間が過ぎました。その後、クレームを出してしまったにもかかわらず、そのお客様は、麻雀仲間、外車好き仲間、親族、役所の知人他たくさんの方を私に紹介くださり、お客様との関係は途絶えることなく続きました。自分としては、面倒見のいい、アフターケアのしっかりした営業マンのつもりでいました。

そして、そのお客様と出会って10年が経ち、イエズス会に入るために、会社を辞める報告をしに挨拶に伺いました。そして本当のことが分かりました。「私がどうして柴田君のところに家をお願いしたのか話そう。」とお客様は切り出され

ました。てっきり、私が誠意をもって関わってきたからだという答えを予測しました。けれども、まったく違いました。「私が柴田のところに頼んだのは、10数社検討した中で、お前が一番へばい営業マンだったからだ。あの時、自分の息子がアメリカで勉強していて、もし実家を離れている柴田君を大事にすれば、息子もアメリカで誰かから大事にされるんじゃないかと思ったからだ」と言われました。わたしは、ショックを受けました。けれども、次第に感謝の気持ちがこみ上げてきました。そのお客様は、経験不足、知識不足の私を息子さんとダブらせて10年間お付き合いくださいました。なんてお礼の言葉を申し上げていいのかわかりませんでした。神様の計らいを感じました。

前置きが長くなりましたが、福音に戻りましょう。私たちは、何かいいことをしたい、人の役に立ちたいと勇んで出かけても、よく失敗して落ち込みます。あるいは反対に、経験や知識がないとしり込みしがちです。けれども、派遣されるのはイエスです。イエスは、自分の行く先にご自身の代わりに私たちを派遣されます。だから、私たちは、経験や知識が不足していても飛び込んでいけばいいでしょう。必要な助けをあの時のお客様のように主は与えてくださいます。

だから、私たちは、限界を感じていても、病いにある人を訪問したり、心の平和を失っている人を励ましたり力づけたりすることができるはずで。また、外へ出かけられなくても人のために心をこめて祈りこともできます。力不足や能力不足を感じていても、派遣しているイエスに信頼して出掛けることすでに福音を世に伝え始めています。

私は結局、最後にお客様からから送り出される言葉をいただきました。「柴田の信じた道をまっすぐ歩みなさい。柴田には向いていると思う。柴田は、ねちっこいからできるんじゃないか？」 私には、イエスからの派遣の言葉に感じました。この高円寺教会でも、力不足・経験不足を感じながらも、皆さんから司祭叙階に向けて沢山の送り出される言葉、派遣の言葉をいただいています。

私たち一人ひとりが、「私は、あなたを世に遣わす」というイエスの言葉を深く心に刻みながらこのミサを続けましょう。

イエズス会助祭 柴田 潔